
第9号 佐々木敦也の経済千思万考

【銀行総資金利ザヤのマイナス:問われる銀行のプレゼンス】 2015.2.2

「銀行の稼ぐ力が落ちている。国内での収益力の目安である「総資金利ざや」は2014年9月中間期で全国112行のうち11行が逆ざやになった。資金需要が伸び悩むなか、日銀の異次元金融緩和で貸出金利や国債利回りが急低下し、住宅ローンなどの顧客獲得競争も薄利に拍車をかける。地方の人口減と並び、収益力の低下は地方銀行に再編を促している。」(2014年12月22日付日本経済新聞)

「逆ざや」とは、銀行の収益につながる貸出金や国債等の資金運用利回りよりも、コストである預金金利や経費等の資金調達原価が上回る状態をいう。預金金利はすでに十分低いので、放置すれば銀行の自己資本は減少していき、いずれ破綻する。

銀行の資金運用利回りが低迷している理由の一番目が、企業等への融資低迷や貸出競争激化および薄利多売にあることである。

二番目は、国債の運用利回りの低下である。その最大の理由は日銀が異次元緩和等で大量の国債買いオペをしているからだ。実際、10年に1%超であった長期金利(10年物国債の金利)は2015年1月21日、一時初めて0.2%を割り込み、0.195%まで低下した。

そして三番目の理由として、長期金利よりもはるかに低利回りの日銀当座預金の急増だ。日銀当座預金とは、銀行等の金融機関が日銀の中に保有する当座預金をいう。

例えば、異次元緩和で日銀の国債の買いオペに応じた金融機関は、国債の売却代としてその代金が日銀当座預金に振り込まれる。かつて日銀当座預金には金利が付かなかったが、08年10月以降は金利が付くようになった。これを「付利」というが、付利は前述の長期金利よりも低い利回りである0.1%しかない(08年12月以降)。もちろん、銀行等の金融機関が日銀の買いオペに応じるのは、国債の売却で一時的な利益を得ることができるからだ、その結果、このような低利回りの日銀当座預金が急増しているのだ。

以上のように、国内での利ザヤが厳しくなる中で、活路を見出すのは、金利以外での海外融資や手数料ビジネスと言われるが、これはメガバンクなどのグローバルバンクのとり道である。大多数の地銀はローカルバンクとして、ここは「地方創生」の目玉となる、「観光」や「農業」ビジネス

掲載されている情報は、投資判断の参考として投資一般に関する情報提供を目的としたものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。また、紹介する個別銘柄の売買を勧誘・推奨するものではありません。投資に関する最終的な決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートの一部または全部を事前の承諾なしに引用、複製すること、及び形態の如何、加工の有無に問わず、第三者に提供することを禁じます。

など地方の産業の新陳代謝に向けて、銀行として積極的に取り組む姿勢をとることが重要だ。地域の企業や大学との協働により、地域の産業の生産、加工、流通などでのイノベーション創出を全力でサポートし、そのプレゼンスを発揮すべきである。まさに銀行の真価が問われる時代を迎えたと言えよう。

以上

ディスクレーマー(免責条項)

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権は、佐々木敦也及び株式会社アイロコス(以下「アイロコス」という)帰属し、事前にアイロコスへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。アイロコスが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。本資料に掲載される株式、投資信託、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少する事もあり、価値を失う場合があります。本資料は、本資料により投資された資金がその価値を維持または増大する事を保証するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの損害が発生した場合でも、アイロコスは、理由の如何を問わず、責任を負いません。投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。以上の点をご了承の上、ご利用ください。

掲載されている情報は、投資判断の参考として投資一般に関する情報提供を目的としたものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。また、紹介する個別銘柄の売買を勧誘・推奨するものではありません。投資に関する最終的な決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。このレポートの一部または全部を事前の承諾なしに引用、複製すること、及び形態の如何、加工の有無に問わず、第三者に提供することを禁じます。